



## 胎児のために 始めよう



第1号のリーフレット (H5)

## 一円玉は赤ちゃん

胎児おうえんボランティア基金代表  
北里大学生命倫理委員 作家 高見沢潤子

此の頃の若い男女の性の乱れも何とかくいどめたいが、その結果におこる中絶の問題はどうしても出来るだけ少なくしたいのが生命尊重センターの必死の願いである。性教育などがされてはいるが中絶は一向へらないところが益々ふえるばかりだときく。何とかしなければと、生命尊重センターは一円献金を始めた。一人でも多くの人が此の運動に参加して、暖かい御協力をして頂きたいためである。一円は一番小さな弱いお金である。うまれ出たばかりの何も出来ない弱い赤ん坊と同じである。しかしだんだんとふやしていけば、赤ん坊がだんだんと成長し、徐々に、みて笑い、声を出し、這い這いするようになるのと同じように、多くの人が心をこめて一円ずつ献金して下されば価値ある、役に立つ額に成長するのである。

平成5年9月「胎児おうえんボランティア基金」は  
中絶を少なくし、胎児のために始めよう  
産声をあげました。



「円フリオ基金」の  
誕生について知っていますか？



## ひと口1円1億人へのメッセージ

人の心が優しくなった頃 小さな生命は大切にされた  
いつのまにか 人は多くの物を捨てるようになった  
お金も そして人の生命さえ

一円玉が捨てられている  
気づいても 誰も拾おうとはしない  
小さな声が聞こえませんか  
“私のいのちを生かして”と

軽いアルミの一円玉  
手のひらにそっと包んでみると  
なんだか気持ちが優しくなる  
貨幣の赤ちゃん一円玉は  
未来の赤ちゃん胎児と同じです

一人がポンと 一億円を出すより  
一億の人が一円をだして  
赤ちゃんのいのちを救うほうが 美しい

一円を生かして 小さな命を生かす  
人間のこころを生かす  
21世紀を豊かにデザインするために  
あなたの優しさをわけていただけますか



第2号 (H7)

新しい家族の誕生を支援する

## 胎児おうえんボランティア基金

赤ちゃんが健やかに生まれ、育つことができ、  
親が子育てを通して幸せを感じられる社会づくりを  
めざして、生命尊重センターが母体となり、  
平成5年9月20日設立

平成4年10月14日、ドイツ・バイエルン州のエアランゲン大学病院は、交通事故で、脳死状態になっている妊娠4ヶ月の未婚女性について、胎児が生きていることから、出産まで延命措置を続けることを発表。日本の各新聞社もこの問題を大きく取り上げました。胎内で胎児が生きている！女性のお父さん、お母さんもこの胎児を助けたいと願っている！早速、朝日新聞社あてに、私たちが何か応援したいと、献金を送りました。まもなく、朝日新聞東京本社、長井道一氏より「わが国にも、新聞社にも、胎児尊重に役立つ基金の制度がありません」と返金されてきました。誰もが通る「いのちの始まり」を守る基金制度がないとはどういうことでしょうか。

このことを通じて、私たちの新しい家族、小さなみえない胎児の生命を皆か守り育てていく社会にとの願いを、貨幣の赤ちゃん一円玉に託して、「ひと口一円一億人へ胎児おうえんボランティア基金」の呼びかけを開始しました。

国内初  
お腹の赤ちゃんの命を守る  
基金制度！

平成10年「円フリオ基金」と改名。

次号に



平成7年阪神・淡路大震災で6人の赤ちゃんと妊婦さんを応援したのが第1号の円フリオベビーです。